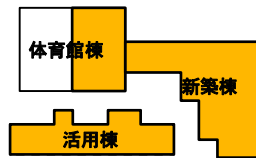
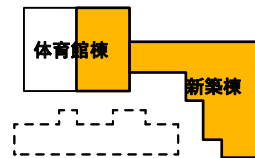
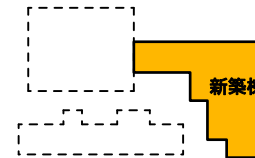


○将来的な必要面積の変化に柔軟に対応できる庁舎

- ・技術の進歩、人口の増減、求められる用途変化など、時代の流れと共に庁舎の必要面積は変化していくと予想されます。
- ・本計画では、この必要面積の変化に応じて減築可能な計画とすることにより、将来的な維持管理費の削減し、市民の財政負担を低減出来るよう配慮します。

	2026年 (竣工時)	中期(約20年後) (活用棟解体時)	長期(約40年後) (既存棟解体時)
想定必要面積	約6,500㎡	約3500㎡～約4000㎡	約1500㎡～約2000㎡
配置			

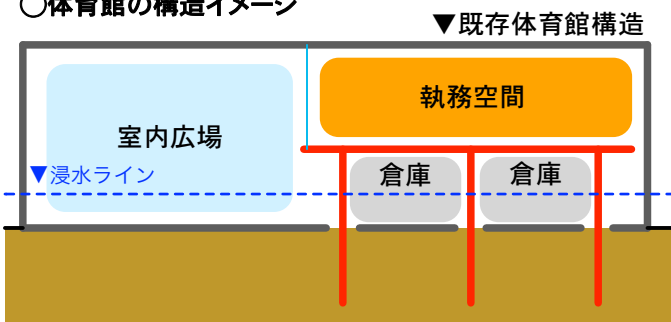
○既存施設を活用し、コスト縮減と環境負荷低減の庁舎

- ・旧校舎棟、体育館を活用し、建設費、維持管理費の削減に配慮します。
- ・体育館2階の床は、既存の躯体から切り離された構造体とすることで、既存躯体に負担をかけず、構造的な既存継ぎが発生しない構造計画とします。
- ・解体建設に伴うCO2の排出量を全体で約6割削減します。

○体育館棟内部の活用イメージ



○体育館の構造イメージ



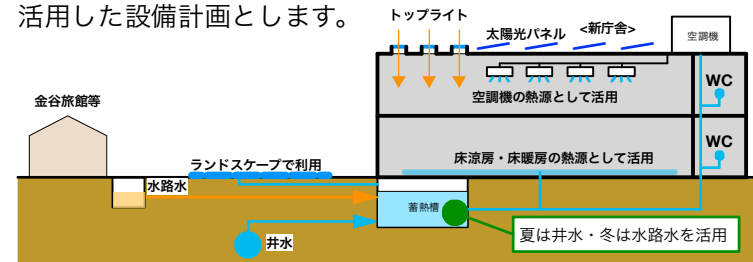
○災害時に防災拠点として継続可能な庁舎

- ・水害に対しても安全な2階に庁舎機能を集約します。
- ・非常時の電源供給を行う非常用発電機を計画し、停電時でも3日以上電力を供給できるよう計画します。
- ・災害時、井水を水源とした雑用水設備等を計画することにより、3日間以上庁舎機能を継続できるようにします。
- ・物資や人員の受援体制の充実を図ります。

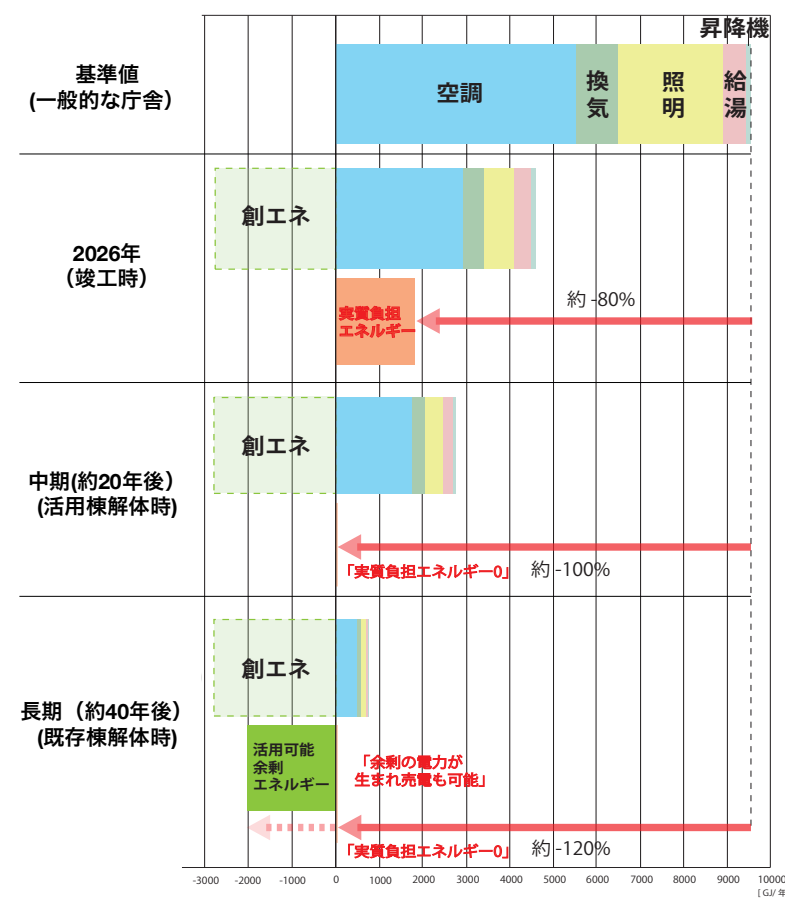
○下田の自然資源を活用しZEB(ゼロエネルギービル)を目指した庁舎

○自然資源を利用した設備計画

- ・下田の豊かな日照、敷地周辺の豊富な井水等、自然資源を活用した設備計画とします。



○段階的な消費エネルギー削減想定のイメージ



※本資料は現段階の想定であり、今後設計を進める中で変更となる可能性があります
 ※消費エネルギーの基準値は、平成28年省エネルギー基準一次エネルギー消費量算定により求めた試算値であり、現況庁舎のエネルギー消費量の削減率とは異なります。

「庁舎×学校×市民」

||

世代を超えて継承する未来の拠点

-今、そこにあるものを資源として活かし、新しい価値を創造する庁舎計画-



既存の校舎や体育館をできる限り再利用することで、地域の持続可能性に寄与し、記憶を未来につなぐ庁舎を建設します。建設費用を低減するとともに、学校の風情をできる限り残すことで、かつての学び舎のように地域に親しまれ、多様な交流ができる、これまでにない庁舎を目指します。

下田市新庁舎基本設計概要資料

令和5年7月31日版

○1階:学校であったことを活かして地域に開き、多様な人々がゆるやかに対話できる空間

- ・1階は地域住民や近隣の学校も利用可能な開かれた空間とし、世代を超えた交流が生まれる配置とします。
- ・車と歩行者の動線を明確に分けることで、両者にとって使いやすく、安全な計画とします。
- ・平日は庁舎として、休日は市民の交流拠点として、また災害時は受援拠点として、多様な活動を支援する配置計画とします。



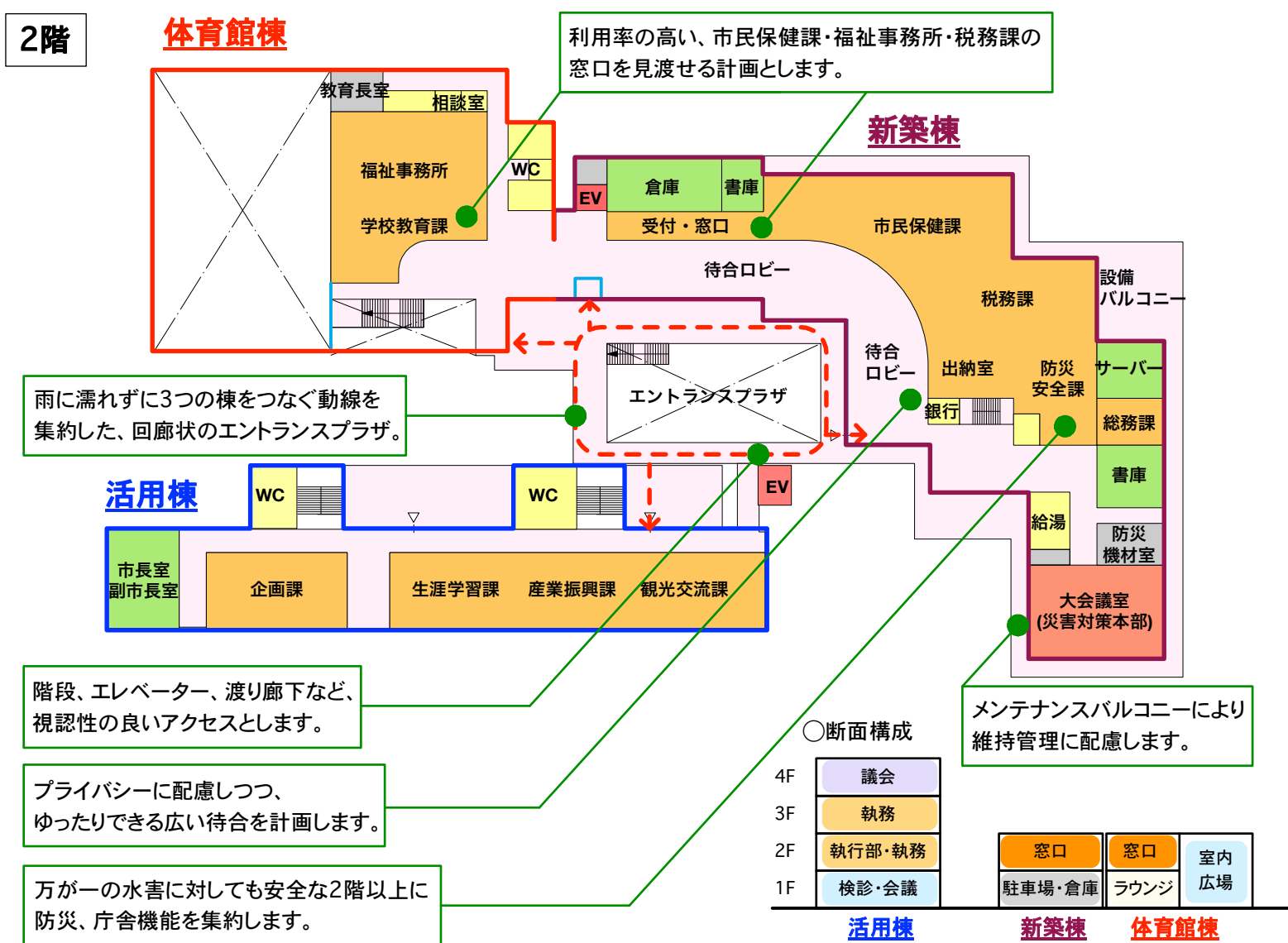
○建築概要

	延床面積	構造種別	階数
体育館棟	1538㎡	SRC+S造	地上2階
新築棟	1758㎡	RC造	地上2階
活用棟	3082㎡	RC造	地上4階
敷地面積	16,268㎡		

※本資料は現段階の想定であり、今後設計を進める中で変更となる可能性があります

○2階:窓口機能を集約した全体が見渡せる利用者にやさしい庁舎

- ・窓口機能を2階中央部に集約することにより、すべての人にとってわかりやすい平面計画とします。
- ・エントランスプラザを中心とした動線計画とすることにより、各棟・各階の行き来をスムーズに行えるよう配慮します。



○ワークショップを通して地域の人々の意見を反映

- ・設計期間中に市民、在勤在学者を対象としたワークショップを複数回行い、参加者からの要望や、下田がもつポテンシャルを発掘し、設計に反映します。
- ・ワークショップでは地域開放ゾーンを中心に利用のアイデアや市民参加型の維持管理方法を共に考え、市役所がオープンした後も、当事者として市役所運営に関われるきっかけづくりを行います。

○令和5年5月23日に開催された下田高校の学生とのWSの様子

